

科目名		建築法規演習			
担当教員		澁谷 征延		実務授業の有無	有
対象学科	建築士学科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形式	演習	時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		「建築法規演習」は、1年次の基礎知識を基に、二級建築士試験・実務に対応出来る建築法規の習得を目的とする。授業内容に伴い、基準法・施行令・告示等の関連を練習問題等を行い、再度確認して条文の理解を深める。(タブレットを使用し、過去問題に取り組んでもらいます)			
学習目標 (到達目標)		二級建築士取得に必要な建築法規の知識習得を目指す			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		「図説やさしい建築法規」著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社、「建築関係法令集」発行所：(株)総合資格学院			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	用語の定理			建築士試験に出題された内容について理解する	
2	確認申請			確認申請が必要な建築物を理解する	
3	面積・高さ・階数			建築面積・延べ面積・建築物の高さ・階数についての算定が理解でき計算できるようにする	
4	採光に必要な開口部 (居室の採光、有効面積の算定)			採光に必要な居室、有効な部分の面積の算定が理解でき計算できるようにする	
5	建築物の高さ規定			地域・道路・隣地における建築物の高さ制限規定について説明。(地域、道路、隣地における建築物の規模や面積制限が理解でき、計算できるようにする)	
6	用途地域内の建築物			用途地域の目的、建築物の制限が理解でき説明できるようにする	
7	容積率・建ぺい率の規定			建築物の規模(大きさ)、建築面積の制限規定について説明。(敷地・道路・地域における建築物の規模や面積制限が理解でき計算できるようにする)	
8	耐火建築物、準耐火建築物			耐火・準耐火建築物としなければならない条件について理解する	
9	防火区画等			建物の耐火性能、用途・規模等による必要な防火区画・種類等が理解でき説明できるようにする	
10	避難施設等			廊下・階段等の必要な幅・種類・構造、排煙設備・非常用の照明・出入口の設置基準、構造が理解でき説明できるようにする	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
取組姿勢	評価テスト			2級建築士合格へ向け、今までに学習した内容の復習として、二級建築士の過去問等を中心にテスト形式で実施します。法令集の引き方や条文の読み方を覚え、1項目ずつ理解しましょう。いかに法令集を早く引いて、読みこなせるかがカギとなってきますので、ここを意識して授業に臨んでください。	
20 %	80 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		一級建築士事務主宰。建築実務(設計・設計監理・現場管理)16年			